

# 地球防衛家のヒトヒト



## 中国・苗族の刺繍魅せられ20年

### 愛知の夫婦都内で紹介

中国の少数民族、苗族の細密な刺繍を紹介する展覧会が東京都田代谷区で開かれている。晴れ着や赤ん坊を背負う荷帯など約60点を、刺繍に魅せられた愛知の夫婦が集めた。苗族が暮らす土地でも失われつつある手仕事の伝統を鮮やかに手仕事の手紙を飾りつつ、



祭りの準備で、銀の飾りをつけてもらう少女＝佐藤雅彦さん撮影

中国の少数民族、苗族の細密な刺繍を紹介する展覧会が東京都田代谷区で開かれている。晴れ着や赤ん坊を背負う荷帯など約60点を、刺繍に魅せられた愛知の夫婦が集めた。苗族が暮らす土地でも失われつつある手仕事の伝統を鮮やかに手仕事の手紙を飾りつつ、

えがあり、子どもの服や晴れ着に細かい針目で丁寧に刺繍をほどこす。独自の文字をもたない苗族は、刺繍が伝言や信仰を伝える手段だったとされる。愛知県常滑市の佐藤雅彦さん(67)、瑞代さん(49)夫妻は1989年代後半から2007年まで中国に滞在し、



展示された苗族の民族衣装の前に立つ佐藤さん夫妻。妻は東京都田代谷区にある「生活工房キヤラー」(生活工房キヤラー)で

在、刺繍のとおりになつた。苗族の村を何度か訪れ、交流を深めた。高度成長と開拓の激しい貴州省にもなつて、文化の承が難しくなつていった。2人は19年、貧しい家庭の子が教育を受けぬが刺繍も学ぶ学校を同省で開校。現在は苗族自身が運営、文化を伝える施設になっている。

夫妻の手元には千点以上の品々が集まった。常滑市の自宅に13年「苗族刺繍博物館」を設け、完全予約制で公開している。11日に始まった「生活工房キヤラー」(世田谷区太子堂4丁目)の「ミヤオ族の刺繍」を暮らし展で、約60点を展示。館外ではこれほど大規模にコレクションの民族衣装を紹介するのは初めてという。

館長を務める瑞代さんは「夫は会社員で私は主婦。ただただ集めてきただけ。人の手が生み出すもので、できるよ。男子学生向けのキャリア教育がもっと必要」と話す。

大府市の向井正博教育長は17日の定例会見で、すべての府立高校を対象にした生徒の髪の色をめぐってのアンケートを実施していることを明らかにした。生まれつき色違いの髪を黒く染めるとか教諭から指導され「不登校になった」として府立高の学生生徒が府を相手手に訴訟を起こしたことをふまえ、各校の指導実態を把握するが目的という。

府教育庁によると対象は154校。髪を染めてくる生徒への対応のほか、校則に髪の色は黒限るといった規定があることや、地毛が黒くない生徒に「登録」や「証明」などの手続きを求め集約後に公表するという。向井教育長は、原告となつた生徒について「生まれつき黒髪であつたといつてを前提に学校は指導している」とし、生徒の本来の髪は黒色だったとの見解を示した。訴訟の中で生徒側が「金髪の外資系留学生でも黒髪を染めると学校側から説明を受けていた」と主張した点については、

「一校長はなぜこんな指導をしているのか」と否定した。葛飾署によると、被害者は15日午後5時50分ごろ、東京都葛飾区四つ木1丁目の荒川河川敷の橋の下で、無届出山登男さん(61)の頭をハンマーで殴って殺害した疑いがある。2人は現場近くで暮らすホームレスで、一緒に酒を飲んでいて口論になり、山登男さんがハンマーを持ち出したため合いになつたという。山登男さんは頭のほか、胸や首にも殴られたような痕があつた。

会期は12月10日まで(月曜休み)、入場無料。(大森香)

会期は12月10日まで(月曜休み)、入場無料。(大森香)

確かな情報をネットでも朝日新聞が有料で提供する情報サービス配信サイト。億単もあるコンテンツをネットでも

確かな情報をネットでも朝日新聞が有料で提供する情報サービス配信サイト。億単もあるコンテンツをネットでも

星の子 今村夏子 定価152円(税別)

お求めは書店、ASA(朝日新聞販売所)、朝日新聞出版ホームページでもどうぞ

ニュースEX au携帯に情報配信



11月9日 多様な生きかた

とに放れ、一男女間わす。100人いた100通り

できるよ。男子学生向けのキャリア教育がもっと必要

ここから企画した。武内さんは、男性は痛み

れて暮らす 交際朝日 9633

